自然素材を活用した安心･健康リフォーム

エコバウ･リフォーム

11月号　エコロジー＆ 建築生物学

～ 世界をリードするドイツ･リボス社のナチュラル製品 ～

リボスの製品は 30 年前から変わることのない「徹底した安全性」と「自然と調和し心がくつろぐ色調」です。そのために「生産履歴のある自然素材」を「成分完全明示」で製造し、自然素材にも潜む有害物質までをすべて排除しています。そのためすべて手作りに近い工程で製造され不純物や予期せぬ有害物質が入っていないかをラボでチェックします。

特に亜麻仁油を絞る工程は「工場」にはほど遠く、リボスのこだわりが出ています。まず有機栽培の亜麻を使い、低速で回転する絞り機で、機械温度 40 度で「一番絞り油」を絞り出し、それをさらにフィルターで濾して食品レベルの亜麻仁油が出来上がります。この時の機械温度が 40 度を大きく超えると亜麻仁油に含まれるビタミンＤが壊れ、亜麻仁油の酸化を大幅に進めてしまい塗膜の紫外線による劣化を早めます。でも、多くのメーカーはこの絞り工程で効率を上げようと回転をあげるので、80 度まで上がってしまい紫外線に弱い塗料が出来上がるのです。

出来上がった亜麻仁油と共に、搾りカスも農家に「ビタミンＤのたっぷり入った牛の飼料」として完全に使い切られます。その牛の糞が亜麻の肥やしになり、完全に循環する仕組みがあります。

ECO REGION＝エコ地域

今回の取材した地域はハノーバーとハンブルグのちょうど真ん中あたりです。ドイツが東西分離時代は国境線がすぐそこにあり、いわゆる一発触発の危険性のある不安定な土地でした。だから企業も無く、人口も少ない発展の可能性の無い土地でした。しかし約１０年前リボスがこの土地に進出した事をきっかけに「何も無いこと＝自然が豊富」が他の地域に無いものと気づきエコロジーな会社、自然を求める人々の関心を集め始めました。その結果、現在ではこの地域は「エコロジー地区」としてドイツ中に向けて情報発信しビジネスとしても成功しつつあります。

リボス自然健康塗料を初めとし、バイオ農業、畜産の Demeter 認定バックホフ農場、自家栽培野菜肉が売り物のエコホテル風力発電事業エコロジー家具などなど多くのエコロジー企業が集まり、乗馬や豊富な自然とあわせて地域をブランド化することに取り組んでいます。

今回実際にそのうちの一つのホテルに滞在しましたが、連日レストランは３０-４０歳の女性で満員で、宿泊も多く、エコロジーがビジネスに直結しつつあることが実感できました。

～ 新宿 OZONE にもエコバウ･スタジオ OPEN ～

「スイス漆喰」「氷河粘土」スイスウォール社の塗り壁やドイツリボスの自然塗料、中世からスイスやドイツで使われている全く同じ製法で作られた漆喰や、アルプスの特産である氷河が生んだ火山灰粘土という、感を生かした本物のナチュラル＋デザインで提案しています。

民家再生

ＬＯＨＡＳな時代の変化は今そこまで来ている

リフォームから見たドイツという国

建築家 石黒 隆康 設計事務所
BUILTLOGIC 代表　木造戸建住宅
マンションインテリア設計、リフォーム設計で自然素材とデザインの融合した建築は高い評価を得ている。TV チャンピオン「マンション・リフォーム王選手権」出演

加藤 俊和
１０年来、自然素材で日本中の住宅を「呼吸する健康で上質感のある住宅」に変える、そんな気持ちで最新ドイツ、スイスのエコロジー住宅情報や自然素材リフォーム情報を発信

ドイツのエコロジーを紹介するとき、少し思い入れや感情が先行してしまい、良い面だけを紹介する結果「はるか遠くの到底まねできない国」になってしまっていることが良くあります。でもこのレポートを見ると、そこに至る過程として一人ひとりの意識、政治の力、経済の力など日本でも今すぐに行動すれば、一歩近づくことがわかります。ドイツでさえも今も悩みながら行動しているのです。「国民の１０％の意識が変われば、一気に状況は変わる！」今ドイツで多少コストが高くても自然エネルギーにするべきだ、環境を考えた製品を買うと答えた層が 10%を超え、緑の党などの環境を提言する社会の組織の支持者が 13%を超えました。日本では LOHAS という環境志向のライフスタイルを考えている人々が 30%に達するそうです。LOHAS は時代の変化が今すぐそこまで来ています。変えるのは自分達です。

ドイツと日本の違い

この取材ツアーはドイツ北部で取り組む「ECO　REGION＝エコ地域」という町おこしを通じて、エコロジーな生活をする人々を取材するツアーでした。このツアーで感じたのは１９４５年に敗戦した国同士なのに、片や伝統に根ざした生活を重視し、それが「スローライフ」という 21 世紀の生活を提案し、もう片方は良き伝統、習慣、建築までも全て忘れ、今やある部分アメリカ以上に過去の経験や文化を尊重しない国になってしまった日本。どちらが良いかはそれぞれが決めることです。でもどちらが幸せそうか、生活を楽しんでいるかは明らかです。

ドイツ エコツアー

朝もやの撮影の後はアウトバーンに乗ってハノーファー方面へ約 2 時間。土曜日なので車も少なく小さなミニバンで 4 人乗って 180km でぶっ飛ばしました。知ってましたか？ドイツでは土、日曜日は大型トラックは野菜や牛乳などの生鮮食品以外を運ぶ場合はアウトバーンを走れないのです。着いたところは世界最古の大学のあるゲッティンゲン市。ここでゲッティンゲン大学とある町が共同で行うバイオマス発電施設の見学です。お城のある中世の町ゲッティンゲンの町並みを見下ろす丘に立つバイオマス発電施設は、周辺の豚や牛の糞やトウモロコシの茎などを原料に発電し、町の全ての電力をまかない、さらに発電の廃熱でお湯をわかし町の暖房のほとんどをまかないます。

バイオマス施設の写真を、町の古い教会から撮っていると、「うちの家を見ないか？」と突然の申し出。ゲッティンゲン大学で中国語を専攻する女性でした。早速見せてもらうと、なんとそれは 17 世紀に建てられたお城。今でも公爵などが住んでいるらしく「これが今度公爵が引っ越してくる建物で、いまリフォームしているところ」などなどの解説で、「リフォームって言ってもえらい違いだなぁ」と感心。

しかし、このツアーを通じて感じるのは、ドイツのいたるところに中世の歴史があり、生活習慣や建物のよいものが沢山残され、そして今でも現役で使われていることです。

ECOBAU REFORM
リフォームアップル自治医大店
URL http://www.reform-apple.com
0120-393-897
栃木県下野市祇園1-20-1　〒329-0434
（自治医大駅東口・足銀すぐそば）
☎ 0285-44-8208（fax共通）
ホームページで実例を多数ご紹介中。

リフォームアップルは日本の住文化としての民家の再生・保存・リサイクルをすすめ資源循環型社会を実現するため社会的啓発を行い具体的な諸活動を展開する NPO 法人「日本民家再生リサイクル協会」の法人会員です。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。